



福岡県感染症情報ホームページでは、
感染症発生情報、病原体検出情報などを
ご覧になれます。

がん感染症疾病対策課感染症対策係
担当 中尾 長藤
直通：092-643-3597
内線：3065

福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和8年第41週（令和8年10月5日～令和8年10月11日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

- ・インフルエンザの1定点医療機関当たり報告数が10.02となり、今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いとされる基準値：10を超えましたので、本日注意報を発表しました。これから、さらに感染が拡大するおそれがあるため、今後の動向に注意が必要です。本疾患は、主に患者の咳やくしゃみに含まれる飛まつを吸い込むことや、感染者との接触により感染します。潜伏期間は1～3日程度で、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。感染予防及び拡大防止のため、手洗いの励行、適切なマスク着用、こまめな換気、咳エチケット等に努めましょう。
- ・今年1例目となるエムポックスが報告されました。本県では、令和5年、令和6年に続き、3例目の報告になります。本疾患は、エムポックスウイルスによる感染症で、通常6～13日（最大5～21日）の潜伏期間の後、発熱、頭痛、リンパ節の腫れ等の症状が0～5日程度持続し、発熱の1～3日後に発疹が現れます。発疹は、水ぶくれ・のう胞・かさぶた（痂皮）へと変化します。多くの場合、発症から2～4週間症状が持続した後、自然に回復しますが、稀に重症化することがあります。感染した人や動物の皮膚の病変、体液、血液に触れた場合（性的接触を含む）、患者と近くで対面して長時間の飛まつにさらされた場合、患者が使用した寝具等に触れた場合等に感染します。疑わしい症状がある場合は、身近な医療機関に相談の上、マスクの着用や発疹部位をガーゼで覆う等の対策をして受診してください。海外での発生報告もありますので、帰国後に体調異常のある方は、渡航歴等を医師に伝えてください。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	11	605	261	11,254
細菌性赤痢	1	6	1	53
腸管出血性大腸菌感染症	2	175	122	3,448
エムポックス	1	1	5	137
日本紅斑熱	2	15	27	466
レジオネラ症	5	61	66	2,058
レプトスピラ症	1	1	5	20
アメーバ赤痢	1	16	6	380
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	48	10	759
急性脳炎	1	29	15	399
後天性免疫不全症候群	1	47	8	712
ジアルジア症	1	2	4	40
侵襲性肺炎球菌感染症	1	88	22	2,033
水痘（入院例）	1	26	7	650
梅毒	12	564	148	8,732
百日咳	4	223	83	4,599

■ 定点把握疾患報告数

：警報

：注意報

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	74	0.61	1.03	5,635	1.51
インフルエンザ	1,222	10.02	1.12	42,320	11.35
急性呼吸器感染症	7,866	64.48	1.13	224,516	60.34

病名	福岡県			全国(前週)	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
RSウイルス感染症	102	1.46	1.26	2,327	1.03
咽頭結膜熱	33	0.47	0.70	484	0.22
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	140	2.00	1.10	2,907	1.29
感染性胃腸炎	334	4.77	1.06	7,373	3.28
水痘	21	0.30	0.91	467	0.21
手足口病	42	0.60	1.50	1,834	0.81
伝染性紅斑	0	0.00	0.00	40	0.02
突発性発しん	25	0.36	0.96	599	0.27
ヘルパンギーナ	14	0.20	0.78	2,465	1.10
流行性耳下腺炎	1	0.01	0.50	107	0.05
急性出血性結膜炎	0	0.00	0.00	4	0.01
流行性角結膜炎	94	3.62	0.78	451	0.65
細菌性髄膜炎	0	0.00	－	7	0.01
無菌性髄膜炎	1	0.07	0.50	25	0.05
マイコプラズマ肺炎	2	0.13	－	305	0.64
クラミジア肺炎	0	0.00	－	6	0.01
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0	0.00	－	1	0.00